

校長先生の初恋物語

第60話 よしこさんのハートの目

きのこ君の目の前に立った輝く少年とは、足長君です。足長君は、後悔しているきんに君の手を引っ張り、きのこ君のところまで行きました。2人の間に入ると、きのこ君の肩をやさしく抱えるようにして、



「きのこ君。気にするなよ。だれだって苦手なことはあるんだからな。きのこ君が遅いのはみんな分かっているから。」

と言いました。続いて、

「きんに君も本気で言った訳じゃないよな。周りのクラスにばかにされて、ついつい言っちゃったんだよな。きんに君の気持ちも分かるよ。ぼくだってばかにされてくやしい気持ちになったよ。」

きんに君はその言葉に泣き出してしまいました。

そして最後に、2人に向かって、

「きのこ君が遅い分は、ぼくがもっともっと速く走るようにするからさ。だから、きんに君は、きのこ君のぶんまでもっと速く走ろうぜ。きのこ君は、きのこ君なりにがんばればいいさ。」

足長君のその言葉に、教室の重苦しい空気がすうっと軽くなりました。きのこ君も、足長君も、小さく「うんっ。」とうなずいていました。

きんに君は、きのこ君に言いました。



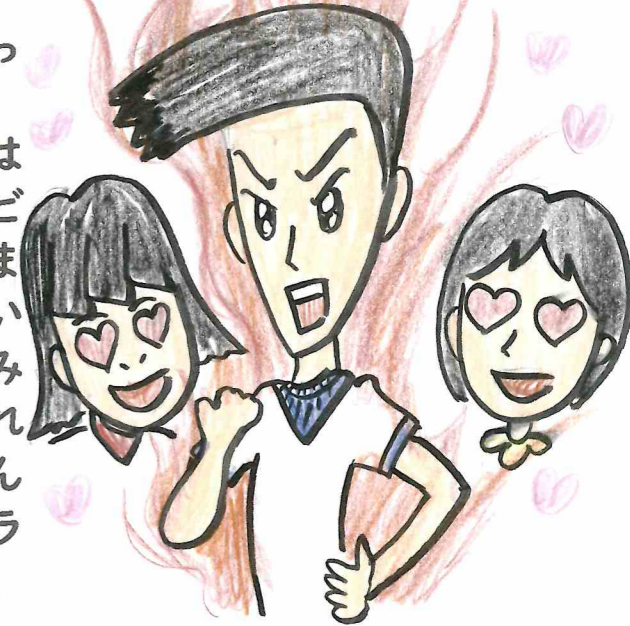
「ごめんね。ひどいこと言っちゃてごめんね。」

とっくんも、きのこ君のところに行ってあやまりました。

「ごめんね。きんに君と同じことを考えちゃったんだ。」
ダンプさんも、よしこさんも、コージ君も、きのこ君に次々とあやまっていました。

足長君は最後に、みんなに向かって言いました。

「みんな、このまま負けっぱなしはくやしいよな。1組や3組から、ビリビリって言われつづけて、このままだいいのかわ。きのこ君が走れないのは仕方ないよ。その分、走れるみんながもっと速く走れるようになればいいんだろ。きのこ君の分をみんながカバーすれば、ぼくたちのクラスだって絶対に勝てるさ。みんな、7月のリレーはがんばろうぜ。」



かっこいい。やっぱり足長君はかっこいい。とっくんは足長君のような学級委員になっていこうと、強く心の中で誓いました。

足長君のかっこいい言葉に、女の子たちの目が、みんなハートマークになっていました。気になるのは、よしこさんです。よしこさんの目も、足長君のかっこいい言葉に、かなり巨大なハートマークになってしまいました。そんなハートマークの目を見て、とっくんはあせりました。「このままじゃ、よしこさんは、足長君をどんどん好きになってしまう。ぼくもがんばらないと。」とっくんも、よしこさんのハートをゲットするためにも、今まで以上に、リレー大会優勝めざしてがんばる決心をしました。そのために、とっくんは、学級委員として動き出すことにしました。

つづく

次回予告 秘密練習